

東三河の経済と社会

第 8 輯



『東三河の経済と社会』第8輯の刊行によせて

『東三河の経済と社会』第8輯をお届けする。本書は、2012年から2016年に至る5年間の東三河地域の行政、経済、産業、社会・文化の動向についてまとめたものである。

第8輯の準備は、2012年度から始まった。まず、本書の執筆者や執筆予定者を対象に東三河地域の現状把握を目的として「エクスカージョン」を再開した。2014年度からは運営委員を中核とする『東三河の経済と社会』第8輯編集委員会を立ち上げ、前所長の樋口義治氏に編集委員長をお願いした。執筆依頼者は学内外にわたり40名におよんだが、本書刊行の意義を理解してくださり、快く執筆に応じてくださった。心より感謝申し上げる次第である。

ふり返れば、第7輯刊行後の5年間にも、地方や地域を取り巻く環境はさらに大きく変化した。2012年には、第2次安倍内閣が異次元の金融緩和を軸とする新たな経済政策、いわゆるアベノミクスを発表した。また、地球温暖化への対応や福島原発事故を教訓として太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの固定価格買取制度がスタートした。翌2013年7月には、日本が多国間の貿易自由化をめざすTPPに参加することになり、2015年10月までに日本をふくめた12カ国が大筋で合意に達した。TPP問題は、とりわけ農業の衰退や地域の破壊を招くのではないかという危惧を高めた。さらにこの間、企業の雇用する従業員の非正規化はその割合を高め、中小企業の経営環境は厳しさを増していった。こうしたなか、消費税の8%への引き上げも重なって、国民の消費支出は低迷を続けている。この他にも「格差社会」、「ワーキングプア」、「子どもの貧困」などが問題となった。

一方、少子高齢化と人口減少を背景として2014年には日本創成会議が「ストップ少子化・地方元気戦略」（通称「増田レポート」）を発表した。これは2040年までに全国の市町村1,800のうち約半数におよぶ896市町村を消滅可

能性都市とするものであった。増田レポートを受けて、政府は「まち・ひと・しごと創生本部」を設置し予算措置を講じた。しかし、こうした上からの「地方創生」の限界は明らかで、各自治体は自主的・自律的な地域政策・地域活性化策を模索しつつある。

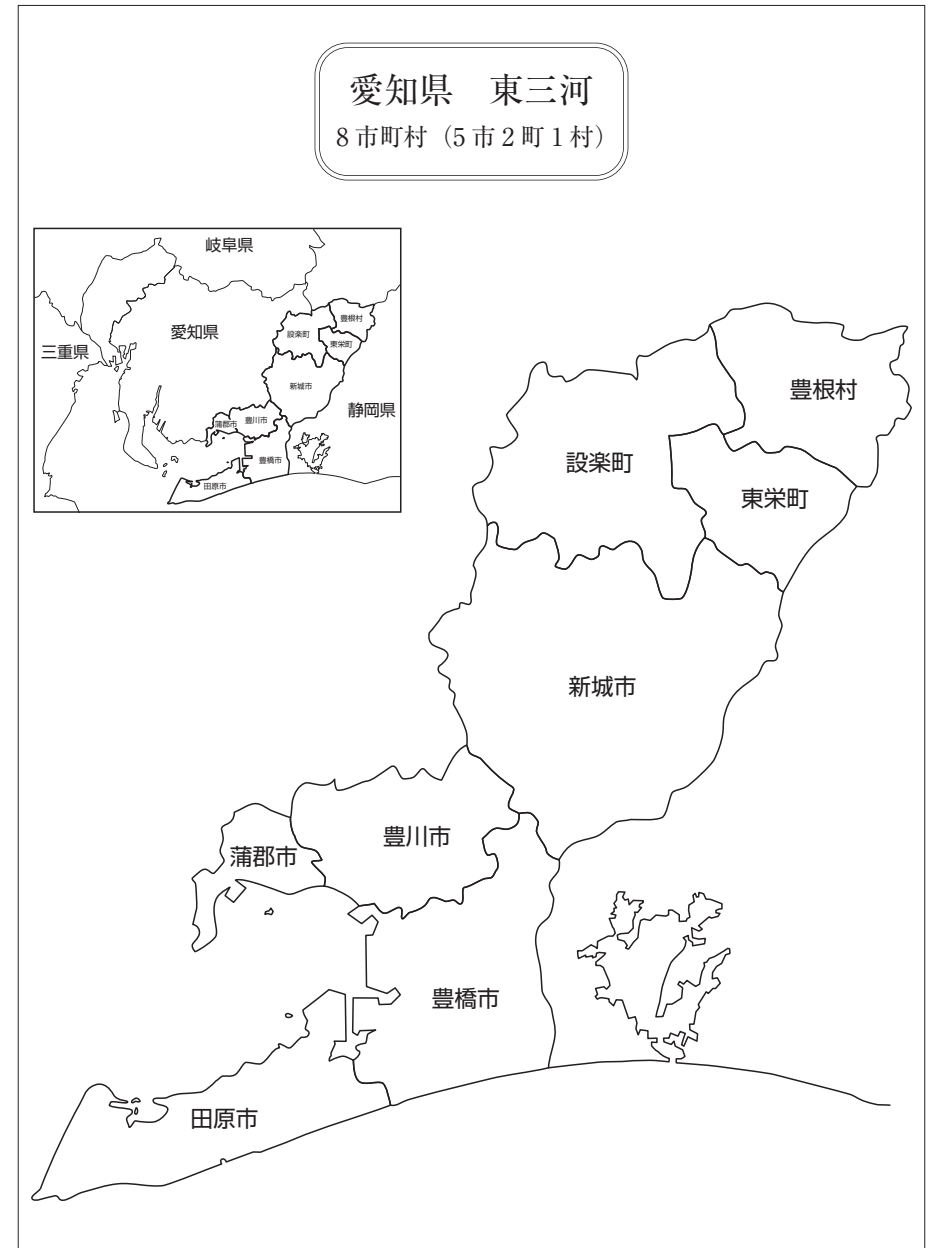
また、この5年間にわたり東日本大震災からの復興が目指されてきた。しかし避難者数は、いまだ12万7,000人に上っており、避難先は47都道府県、1,099の市町村におよんでいる（復興庁 2017年1月末現在）。震災の影響はなお深刻であるとともに、その復興も後手に回っている感が否めない。2016年4月には熊本大地震が発生し、死者50人、災害関連死102人におよんだ。こうした教訓をもとに、東三河の地域や自治体も東南海地震に向けた防災対策が急務となっている。

以上のように、現代社会、そして地域社会をめぐる環境はきびしさを増しているといつてよい。こうした諸問題について、中部地方産業研究所でもプロジェクト研究や個人研究、講演会・シンポジウム等を重ねてきた。十分とはいえないまでも、本書はそうした研究活動の5年間の集大成という見方もできると思う。東三河地域の現状や諸課題を知る手がかりとして本書を利用していただければ幸いである。

本書の刊行にあたっては、その準備段階から執筆・校正にいたる過程で事務局には大変お世話になった。本書は彼らの尽力のたまものである。記して謝意を表したい。

2017（平成29）年3月

愛知大学中部地方産業研究所所長
阿部 聖



目次

『東三河の経済と社会』第8輯の刊行によせて……………(阿部 聖) …… i

I 地域行政

第1章 東三河地域の広域連携……………(戸田敏行) ……	3
① 東三河地域広域連携の構図……………	3
② 広域連携への期待……………	4
③ 東三河県庁……………	7
④ 東三河広域連合……………	12
⑤ 東三河広域経済連合会……………	17
⑥ まとめ……………	20
第2章 平成合併による東三河の行政・地域の変化……………(宮入興一) ……	25
① 平成合併の推進と行政・地域の変化……………	25
② 平成合併の歴史的位置付けと合併に対する「評価」……………	26
③ 愛知県および東三河地域における市町村合併の動向……………	28
④ 豊川市の合併の経緯と課題……………	30
⑤ 田原市の合併の経緯と課題……………	35
⑥ 新城市の合併の経緯と課題……………	39
第3章 産業政策……………(鈴木 誠) ……	47
① 自治体の産業振興……………	47
② 自治体独自の産業振興策……………	51
③ 産業自治に基づく地域産業政策の時代……………	62

II 地域経済

第1章 東三河の経済および社会構造……………	67
1. 愛知県および東三河地域の全要素生産性(TFP)の計測	
-生産関数アプローチ-……………(打田委千弘・洪澤博幸) ……	67
① はじめに……………	67
② データ……………	69
③ 推定モデルおよび推定結果……………	73
④ 結論……………	79
2. 人口の動きと将来予測……………(高橋大輔) ……	83
① 東三河地域の人口の動き……………	83
② 東三河地域の人口減少対策……………	87
第2章 東三河の土地利用とその変化……………(藤田佳久) ……	99
① はじめに……………	99
② 愛知県の土地利用変化とそこでの東三河……………	101
③ 東三河の都市における農地転用の動向……………	106
第3章 東三河の交通……………(森田優己) ……	115
はじめに……………	115
① 「稼げる国土」・「住み続けられる国土」を支える 幹線道路整備……………	115
② 新東名高速道路・三遠南信自動車道の役割とストック効果……………	119
③ おわりにかえて-「道の駅」の役割変化と「良い」道路……………	123

第4章 東三河の労働市場	（森川 竜哉）	127
はじめに		127
① 東三河地域の労働市場規模		128
② 通勤流出入と労働移動		133
③ 所得の流出入と労働移動		136
④ まとめ		140
第5章 東三河の財政	（西堀喜久夫）	143
はじめに		143
① 国の政策による地方財政への影響		143
② 東三河地域の市町村行財政全体の特徴		148
③ 各自治体の財政状況		155
④ おわりに		183
第6章 東三河の伝統的地場産業－「三河木綿・織物」－		
	（辻 隆司）	185
① はじめに		185
② 愛知県下の織物産地とその特徴		185
③ 三河木綿・織物の歴史		187
④ 三河産地の近年の動向		191
⑤ おわりに		193
第7章 データからみる東三河－隣接4地域との2011～2015年の相对比较－		
	（樋口義治・佐藤正之）	197
① はじめに		197
② データからみる東三河の概要		198
③ おわりに		218

Ⅲ 地域産業

第1章 東三河の農林漁業の動き		223
1. 農業・林業	（藤田佳久）	223
① 農業の動き		223
② 林業の動き		233
2. 農産地における農業体験をめぐって	（片倉和人）	243
はじめに		243
① 農産地としての東三河の新たな模索		243
② 農業の担い手の確保		246
③ 風土に根ざす農業の多様性		250
④ 子どもたちにとっての農業体験		252
3. 水産業	（高木秀和）	259
① はじめに		259
② 海面漁業経営体数の推移と経営状況		260
③ 内水面養殖業経営体数の推移と経営状況		264
④ 新たな動き： 蒲郡における水産業活性化の取り組みを事例に		267
第2章 東三河の工業動向		271
1. 工業概況	（渋澤博幸）	271
はじめに		271
① 東三河の愛知県に占める経済的地位と産業構造		271
② 東三河地域の工業の現状		274
2. 東三河の自動車産業	（高橋大輔）	281
① 世界と日本の自動車産業動向		281

② 東三河地域の自動車産業動向	283
③ 次世代自動車の普及による地域産業への期待	287
第3章 東三河の商業	(駒木伸比古・近藤暁夫) 291
① はじめに	291
② 商業	291
③ 消費者行動	305
④ 東三河の商業に対する若干の展望	315
第4章 東三河の観光	319
1. 観光の概観	(安福恵美子) 319
① はじめに	319
② 観光統計からみる愛知県・東三河地域の観光動向	319
③ 東三河観光における新たな動き(2012年～)	321
④ 東三河における広域観光の取り組み	326
2. ご当地グルメ	(鈴木伴季) 331
① はじめに	331
② 三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)・ 資源データベースにみる東三河のご当地グルメ	332
③ 「愛知のうまいもん150『愛知グルメ図鑑』」にみる 東三河のご当地グルメ	334
④ 観光情報誌にみる東三河のご当地グルメ	337
⑤ 各自自治体の「観光ガイドマップ」にみるご当地グルメ	339
⑥ おわりに	341
第5章 東三河の金融	(竹田 聡) 343
① 近年の地域金融－全国的傾向と愛知県および東三河の動向	343

② 近年の東三河における信用保証付き貸出の動向	351
③ むすびに代えて－東三河およびその周辺の地域密着型金融	354
第6章 東三河の貿易と海外進出	361
1. 企業の海外進出	(阿部 聖) 361
① はじめに	361
② 東三河企業の海外進出概況	362
③ 主要企業の海外進出状況	368
④ まとめ	373
2. 貿易・三河港・輸出入	(高橋大輔) 377
① はじめに	377
② 海上出入貨物の状況	378
③ 三河港における完成車貿易	385
④ 三河港の新しい価値創造の取り組み	387

IV 地域社会・文化

第1章 東三河の地域社会	393
1. 都市社会の構造変化	(植田剛史) 393
① はじめに	393
② 東三河における都市地域	393
③ 1990年代後半以降の日本における都市社会の構造変化	394
④ 豊橋市における都市地域の人口推移	396
⑤ 豊橋市における都市地域の産業別就業人口	397
⑥ 豊橋市における都市地域の職業別就業人口	399
⑦ おわりに	401

2. 地域コミュニティ	(交野正芳)	403
① はじめに		403
② 「協働」による事業体制		403
③ 協働事業と4自治体の特性		404
④ むすびにかえて		411
3. 奥三河山間部の地域づくり	(黍嶋久好)	415
① まち・ひと・しごと創生総合戦略		
- 新たな地域づくりの指針		415
② 外部人材の移入施策 (共住施策)		422
③ 奥三河地域のツーリズム (観光) 創生		426
第2章 東三河の医療・福祉		
1. 医療	(西村正広)	435
① はじめに		435
② 医療施設		435
③ 医師		440
④ 課題		443
2. 福祉	(田中昌美)	445
① はじめに		445
② 東三河地域の高齢化の姿		445
③ 高齢者の世帯		447
④ 介護保険サービスの状況		448
⑤ 地域包括ケアシステム構築における課題		451
⑥ おわりに		453
3. 障害者福祉 (政策)	(土屋 葉)	455
① 障害のある人の動向		455
② 政策をめぐる動向		456

③ 東三河地域における障害福祉サービスをめぐる状況	457	
④ 教育	460	
⑤ 重症心身障害児者に対する支援体制	462	
第3章 東三河の教育・文化		
1. 教育の動向	(鈴木伴季・樋口義治)	465
① はじめに		465
② 東三河の教育機関		465
2. 学童保育・特別支援教育		477
① 学童保育	(櫻村愛子)	477
② 特別支援教育	(吉岡昌子)	481
3. 生涯学習 (公民館活動)・市民活動	(岩崎正弥)	491
① 生涯学習 (公民館活動)		491
② 市民活動		494
③ おわりに - 生涯学習と市民活動の連携に向けて		498
4. 教員養成の新しい潮流 - 学校インターンシップ導入による		
大学・学校の新たな関係の可能性 -	(加島大輔)	501
① 教員養成と「学校インターンシップ」		501
② 本学の学校インターンシップの具体的内容		502
③ 本学の学校インターンシップの特徴と今後の展開の可能性		506
5. 愛知を中心とした郷土食調査	(印南敏秀)	509
① 郷土食と郷土料理		509
② 愛知の郷土食の基本図書		510
第4章 東三河の産業遺産		
(天野武弘)	525	
① 産業遺産をめぐる最近の動向		525
② 産業遺産と文化財		527

③ 産業遺産は身近にある	529
④ 産業遺産の課題	534
⑤ 産業遺産の活用と発見	535
第5章 東三河の環境	537
1. 東三河におけるバイオマス利活用状況	(功刀由紀子) 537
① バイオマスタウン構想	537
② バイオマス活用推進計画	539
③ 東三河におけるバイオマス利活用の広域化に向けて	540
④ 東三河振興ビジョンにおけるバイオマス利活用の方向性	544
⑤ バイオマス産業都市構想とのかかわり	548
2. 豊川水系の開発と環境影響および環境保全・修復	(市野和夫) 551
① 三河湾	551
② 豊川水系(一部天竜川の支流を含む)	552
③ 設楽ダム	557
④ 自然環境・生物多様性の保全・保護の施策	559
⑤ 公害問題	560
3. 地質・災害	(沓掛俊夫) 563
① 地質	563
② 新生代層	566
③ 災害	569
第6章 東三河の災害・防災	573
1. 東日本大震災後の防災対策等	573
① 豊橋市の被害想定と災害対策の現状および課題	(宮入興一) 573

② 豊川市の被害想定と災害対策の現状および課題	(西堀喜久夫) 577
③ 蒲郡市の地域防災計画の被害想定と対策の現状・課題	(佐藤正之) 580
④ 新城市の防災計画	(鈴木誠) 584
⑤ 田原市の被害想定と災害対策の現状および課題	(樋口義治) 586
⑥ 北設地域の防災計画	(駒木伸比古) 591
2. 地域の社会・文化としての産業防災	(金子鴻一) 595
① 明海地区事業継続計画(BCP)としての産業防災	595
② 地域特性の共有から協働行動へ	596
③ 協働を促す“体制”	600
④ 地域に軸足を置く産業防災とは	602
第7章 東三河の健康・スポーツ	607
1. 東三河の健康問題	(尼崎光洋) 607
① はじめに	607
② 方法	608
③ 結果	610
④ 考察	614
2. 超高齢社会における健康づくり	(新井野洋一) 619
① 人口高齢化の新たな段階	619
② 健康をめぐる今日的话题	621
③ 健康づくり理念の変化	623
④ 東三河における健康づくり	625
⑤ 健康づくりの今後の課題	629

第8章 東三河の女性問題・マイノリティ …………… 633

1. 新卒女性の採用と育成をめぐる現状と課題 …… (武田 圭太) … 633

① 女性が働く環境の整備 …………… 633

② 人的資源調達企業の規模格差 …………… 636

③ 新卒女性の採用選考 …………… 637

④ 女性の育成 …………… 640

⑤ キャリア開発の課題 …………… 643

2. 多文化共生 …………… (植田 剛史) … 645

① はじめに …………… 645

② 東三河における外国人人口の現況 …………… 645

③ 豊橋市における外国籍住民人口の推移と空間分布 …………… 647

④ 豊橋市における多文化共生政策 …………… 652

⑤ おわりに …………… 655

あとがき …………… (樋口 義治) … 657

第1章 東三河地域の広域連携

① 東三河地域広域連携の構図

豊川の流域圏である東三河地域では、地域を一体的に捉えた広域連携を図ろうとする活動が続いてきた。戦後からの広域連携や市町村合併の概略については、『東三河の経済と社会』第7輯に述べた。本稿では、2012（平成24）年4月から現在までの主たる変化を述べ、今後の展開について考察を加える。

東三河地域の広域連携を考える前提として、東三河地域を空間的に取り囲む三遠南信地域の状況をみておきたい。図 I -1-1 に示すように、三遠南信地域は、愛知県東三河地域、静岡県遠州地域、長野県南信州地域が1つの県境地域を構成しているが、平成の市町村合併を経て各県ごとに広域連携の特

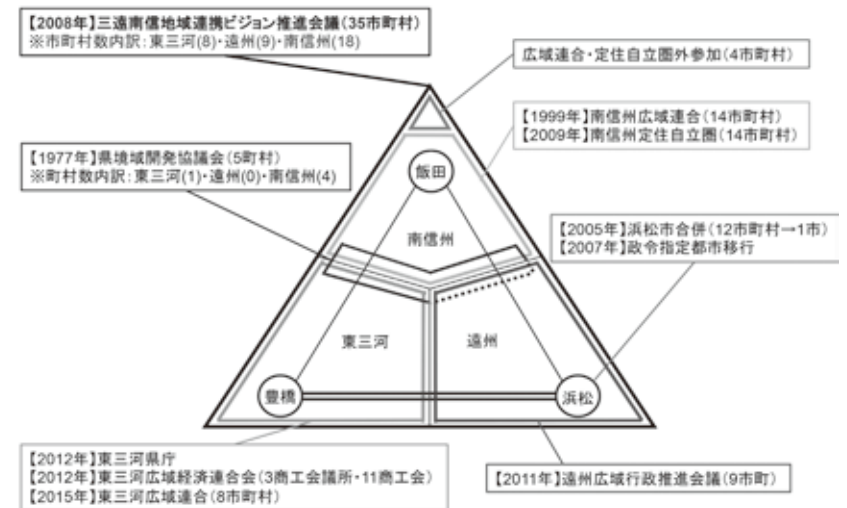


図 I -1-1 三遠南信地域の広域連携